

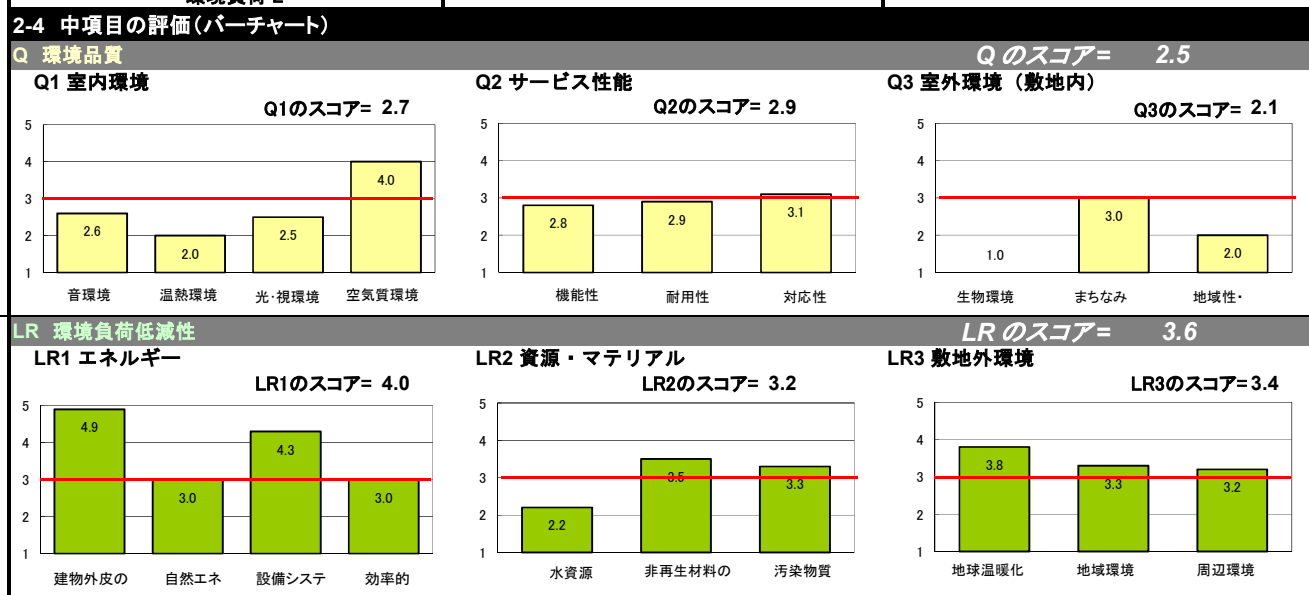
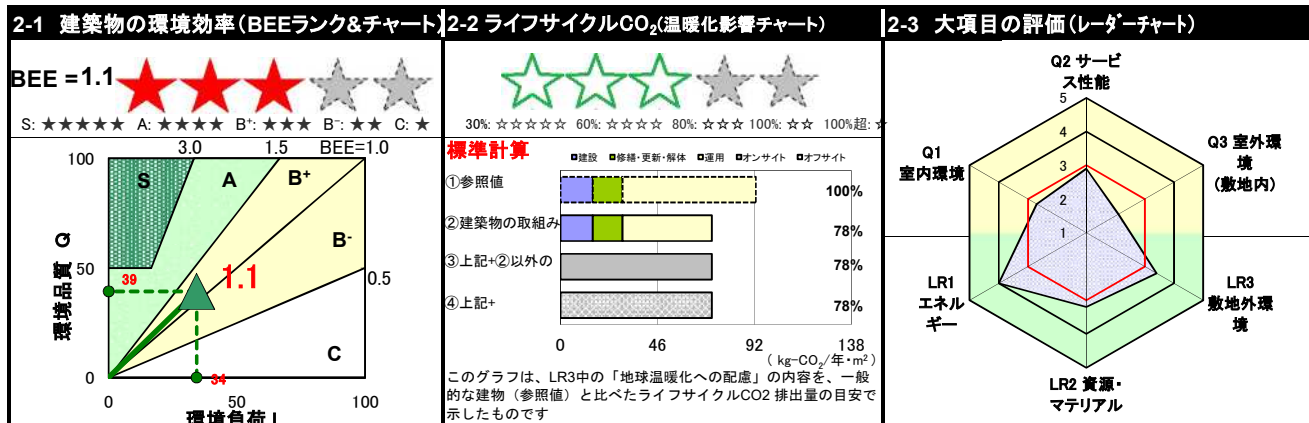
建築物名称	明産株式会社社屋・工場新築工事
受付日	令和5年1月21日
建物所在地	富士市五貫島字世帯割966番2、966番7
構造規模等	鉄骨造／地上3階／延床面2,721.97平方メートル／新築
建物用途区分	工場
建築主	明産株式会社 代表取締役 田原 義博
工事完了予定日	令和5年3月10日

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	明産株式会社新社屋	階数	地上3F
建設地	静岡県富士市五貫島字世帯割966番2、966番7	構造	S造
用途地域	工業地域、防火地域 指定なし	平均居住人員	80 人
地域区分	7地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2023年1月17日
敷地面積	4,315 m ²	作成者	高橋 潤
建築面積	1,696 m ²	確認日	2023年1月21日
延床面積	2,722 m ²	確認者	田原義博



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。		特になし。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
照度が500lx以上1000lx未満。 自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。	リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上。 0.1≦[壁長さ比率]<0.3。	特になし。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BPI=0.81。 BEI=0.67。	LGSとOAフロアを使用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	ライフサイクルCO ₂ 排出率78%。 燃焼機器を使用しません。 光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの項目の過半を満たす。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要										
建物名称	明産株式会社新社屋				BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★	
2. 重点項目への取組み度										
重点項目	得点※/満点		取組み度				評価			
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	2.8	/5	    				がんばろう 			
”災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.7	/5	    				がんばろう 			
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	2.6	/5	    				がんばろう 			
”緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.5	/5	    				がんばろう 			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例		よい 4 点以上		ふつう 3 点以上		がんばろう 3 点未満	
3. 重点項目についての環境配慮概要										
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。					内訳対応項目					
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)					得点		2.8			
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④給水VLP(B)、給湯SUS(C)、排水VP(B)、Eは不使用。				Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能
					Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
							3.2	3.2.1	③	昼光制御
					Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数
							2.2.2	2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔
							2.2.3	2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
							2.2.4	2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔
							2.2.5	2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔
							2.2.6	2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔
					Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし。					3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) ⑦BPI _m =0.81。 ⑨BEI _m =0.67。				LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制	
					2			⑧	自然エネルギー利用	
					3			⑨	設備システムの高効率化	
					4	4.1		⑩	モニタリング	
						4.2		⑩	運用管理体制	
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫LGSとOAフロアを使用している。 ⑬ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。				LR-2	1	1.1		⑪	節水	
						1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無	
							1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
				2	2.1			⑫	材料使用量の削減	
						2.2		⑫	既存建築躯体等の継続使用	
						2.3		⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
						2.4		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
						2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材	
						2.6		⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	
				3	3.1			⑬	有害物質を含まない材料の使用	
					3.2	3.2.1		⑬	消火剤	
						3.2.2		⑬	断熱材	
						3.2.3		⑬	冷媒	
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率78%。				LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮	
					2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	
”災害に強いしずおか”の形成(Disaster)					得点		2.7			
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 特になし。				Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
								2.1.2	⑯	免震・制振性能
							2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
								2.4.2	⑰	給排水・衛生設備
								2.4.3	⑰	電気設備
								2.4.4	⑰	機械・配管支持方法
								2.4.5	⑰	通信・情報設備
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)					得点		2.6			
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳0.1≦[壁長さ比率]<0.3。				Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
						3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり
								3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ
					Q-3	3	3.1		⑲	地域性への配慮、快適性の向上
”緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)					得点		2.5			
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし。				Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
						2			㉑	まちなみ景観への配慮
						3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) 特になし。				LR-2	2	2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
					LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善